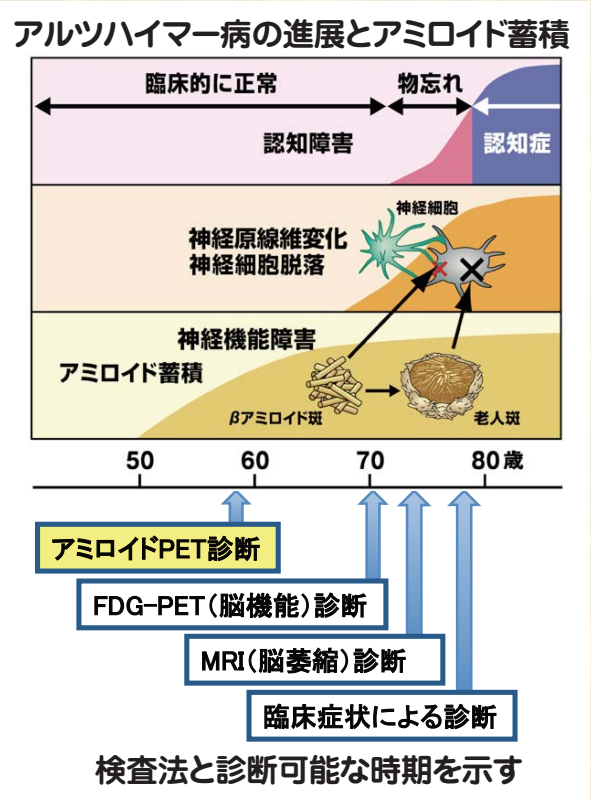
アミロイドイメージングを用いたアルツハイマー病の発症・進展 予測法の実用化に関する多施設大規模臨床研究

東京都健康長寿医療センター研究所　石井　賢二（平成20～22年度）

<長寿科学総合研究事業:認知症対策総合研究事業>

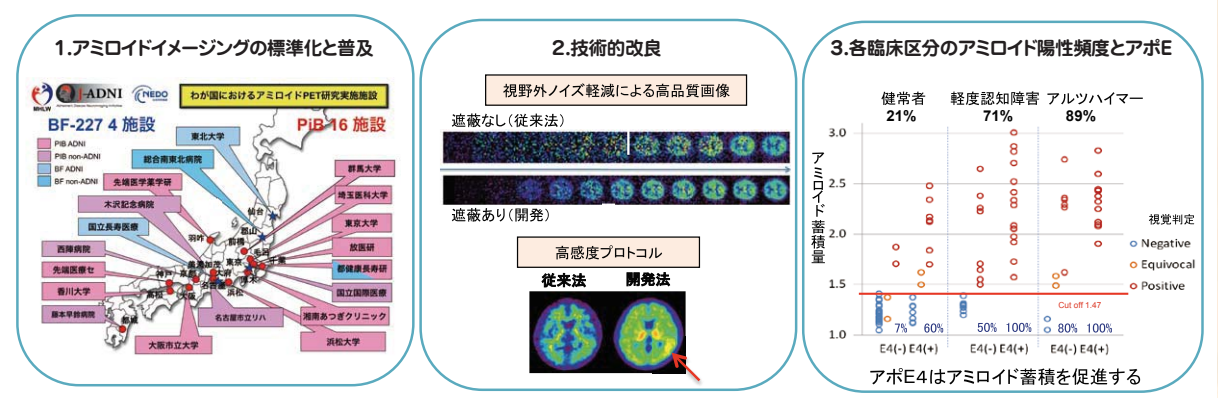
研究目的と背景

アルツハイマー病は発症する10年以上前から脳にベータアミロイドという物質がたまることが原因です。このアミロイドを画像で検出できるアミロイドイメージングという技術を実用化し、根本治療法や発症予防法の開発に役立てます。



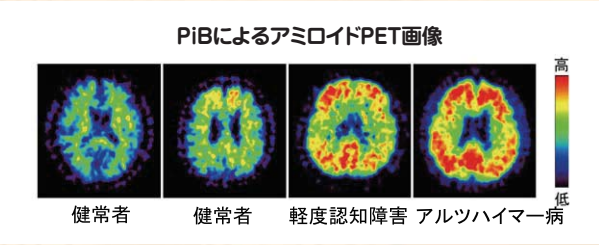
研究成果

1. 全国20の施設で統一した検査法によるアミロイドイメージングができるようになりました。
2. 技術的な改良を行い、高品質、高感度の画像が撮影できるようになりました。
3. 健常者や物忘れの段階でベータアミロイド蓄積がとらえられるようになり、発症予測実用化のための基礎データ蓄積を行いました。



期待される成果・今後の展望、社会に与える影響等

アミロイドイメージングが実用化することにより、アルツハイマー病の超早期治療法、発症予防法の開発が促進され、認知症克服に向けて大きく前進することができます。

（用語）　アミロイドイメージング

ベータアミロイドに結合するPiBまたはBF227という化合物を静脈注射し、ＰＥＴという装置で撮影することで脳に蓄積したアミロイドを画像として見ることができます。